

夢 つかないだ

プロ先駆者 真剣勝負

「お涙ちょうだいなんて、嫌いや」。17日閉幕した北京パラリンピックの陸上男子3種目で入賞した広道純(34)＝大分市＝。障害者スポーツの世界で、プロの道を切り開いた先駆者でもある。

最終日のマラソン。競技場に入る直前のクラッシュに巻き込まれながらも、7位に入賞。「いちから出直し」と話す表情には悔しさと達成感が交錯していた。

4000円と8000円でも8位入

陸上入賞 広道純

賞。8000円は決勝に進んだ8人全員が世界記録を上回るハイレベルなレースを戦った。

堺市生まれ。高校1年のとき、バイクの事故で脊髄を損傷した。リハビリをするなかで、車いすレースに出会う。風を切って走るスピード感。「こんな世界があったんか」

8年前のシドニーでは8000円で銀を獲得。「ひよっとしてこの競技をするために生まれてきたん

と違うか?」。4年後、自分でスポンサーを探してプロ選手に。アテネでも8000円で銅メダルをとった。

「競技の妙味も伝えたい」と06年には選手を育成する「ヒロミチプロジェクト」も立ち上げた。大分で障害者の陸上大会を企画。子どもたちに車いす教室も開く。

海外のコーチに指導を仰ぐプランを持つプロアスリートは言う。「障害者も頑張ってるみたいな言われ方、腹立つんです。いつでもおれらは真剣勝負している」

(武田耕太)

パラリンピック

ネット販売 資金援助

資金難に悩む選手の一助になればと、昨年4月に発足したインターネット販売のブルータグ(東京都、今矢賢一社長)という会社が、同社ホームページ(<http://www.bluetag.co.jp/>)を窓口で支援を進めている。北京パラリンピックの車いす陸上で、男子5000円とマラソンの両種目で5位入賞の洞ノ上浩太(福岡)や、北京五輪馬術代表の佐藤英賢(明松寺馬事公苑)も援助を受けて、夢の実現につなげた。

東京の会社 ブルータグ

インターネット販売を通じて支援する。運動用品やアクセサリなど約400点をホームページで販売。購入者は代金の5～20%を同社が支援する約70人のうち、好きな選手の活動資金として寄付できる。

同社は、支援選手を大会実績や面接で選ぶ。テニス、スキー、車いすバスケットなどの五輪、パラリンピック競技から、セパタクロ、登山などにまたがる。もう一つは、各選手の専用プロ

グの設置だ。選手たちが自分をアピールする場になる。知名度向上が寄付の増加につながる。

一方で、同社のこうした活動を資金援助するスポンサー企業を募集。支援選手との間を取り持つ活動もしている。洞ノ上は自身が使っていたサプリメントの販売会社がスポンサー企業だったことから、今は無料で製品を入手できるようにになった。また選手に入る金額は多くても月10万円程度。今矢社長は「金額を着実に増やして五輪、パラリンピックに出る選手を増やしたい」と話す。

(永田篤史)